

岡山畜産便り

2024 8



真庭市 稲岡 宏紀さん(肉用牛)

も く じ

〔酪農施策〕

- 岡山県の酪農振興施策について
岡山県農林水産部畜産課…………… 1

〔特集〕

- 飼料価格等高騰に伴う岡山県内畜産の収益動向
(一社)岡山県畜産協会 経営支援部 …… 4

〔技術のページ〕

- 乳用育成牛への稲WCSの給与について
畜産研究所 飼養管理研究グループ …… 14

〔県民局だより〕

- デントコーン×プラソイラが登場しました！
備中県民局畜産第一班…………… 16

〔共済フレッシュさん〕

- 産業動物獣医師として三年目を迎えて
美作家畜診療所 蒜山出張所 齋喜 宣孝 … 18

〔畜産現場の声〕

- 一頭入魂 稲岡畜産
真庭市 稲岡 宏紀 …………… 19

〔センムのヒトリゴト〕

- 他人に厳しく 自分に甘い
(一社)岡山県畜産協会 中塚 陽二郎 …… 20

Asahi

つながる
おいしさ。

Since 1919



国産生乳と、
100年以上受け継いできた
乳酸菌と酵母の発酵から
生まれました。

100年のワクワクと笑顔を。

アサヒ飲料

「カルピス」「CALPIS」はアサヒ飲料(株)の登録商標です。

集卵の効率化。

FP-730

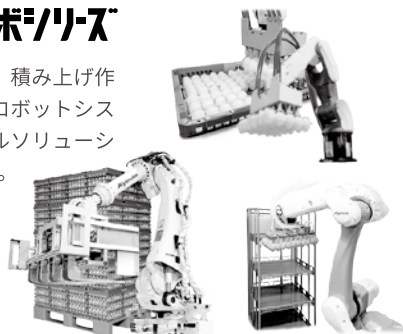
自動検卵装置を搭載することで、規格外卵の排出を可能とし、堅牢性と農場設備に求められる性能を凝縮したファームパッカをご提案いたします。



共和機械は、
お客様のニーズに
お応えします。

省人化につながる容器詰め、積み上げ作業の自動化を、当社独自のロボットシステムを組み合わせたトータルソリューションとしてご提案いたします。

さらなる
自動化へ。



製品品質の向上。

共和機械の独自技術を最大限に活かした最新の不良卵検出装置をご提案いたします。



不適卵前検出装置
AEX



異常卵検出装置
BEX



ひび卵検出装置
CEX



汚卵検出装置
DEX

小ロットの洗卵選別。

シンプルな設計に高い洗浄能力と安心の選別精度を併せ持つ、共和機械の原点とも言える洗卵選別機をご提案いたします。



US series

製品の外観・仕様については、改良のため予告なく変更することがあります。製品の詳細については弊社までお気軽にお問い合わせください。

Kyowa

CREATE THE PERFORMANCE

共和機械株式会社 TEL 0868-26-6600

残暑お見舞い申し上げます

〒708-1115 岡山県津山市河面375 www.kyowa-machinery.co.jp

〔酪農施策〕

岡山県の酪農振興施策について

岡山県農林水産部畜産課

本県における畜産業の産出額は670億円（令和4年）で、そのうち酪農部門は135億円（全国9位）を占める重要な産業です。そして、県内における生乳の生産動向は、畜産クラスター事業等の活用により、農家の規模拡大が進み、1戸あたりの頭数は増加していますが、生乳生産量は離農等の影響で減少傾向です（表1）。

表1 県内の生産動向

	飼養戸数 (戸)	飼養頭数 (頭)	1戸あたりの 飼養頭数(頭)	生乳生産量 (t)
R3	216	16,800	77.8	114,500
R4	207	16,800	81.2	113,870
R5	192	16,000	83.3	109,144

(農林水産省統計)

酪農経営においては、令和2年からの新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う生乳需要量減少に加え、ウクライナ情勢や円安等の影響による飼料費等の高騰により、生産コストが高止まりしており、非常に厳しい状況が続いております。そして、令和6年も回復の兆しが見えておらず、国産飼料の利用量を増やすことが喫緊の課題となっています。

このような中、令和3年に策定した「岡山県酪農・肉用牛近代化計画」において飼料自給率向上に向けて、稲WCSや稲わらなどの県産飼料の利用拡大をさらに強化するため、耕畜連携マッチング支援マニュアルを整備し利活用を推進しているところです。

また、他県ではありますが、昨年11月には牛乳から基準値を超える抗菌性物質が検出され、大規模な回収となる事案が発生し、酪農業界の信頼を大きく損なうこととなりました。

消費者へ安全・安心な生乳（牛乳）を届

けることは乳業メーカーだけでなく生産者及び関係団体の責務であるため、安全性確保の取組をより一層強化してまいりたいと考えております。

さらに、中長期的な酪農の発展を見据え、関係機関と連携し、飼養管理技術の向上等による生産性の向上により、安定供給を図るとともに、担い手育成、消費拡大等にさらに力を入れて取り組んでまいります。

それでは、今年度取り組む各施策を紹介いたします。

1 酪農振興施策

(1) 持続的酪農支援事業【拡充】

目的：飼料等の価格高騰等により新たな投資が難しい状況にあるため、酪農経営を継続できるよう、施設・機器の整備・補改修、生産性の向上に資する新技術の導入及び担い手対策を支援する。

内容：①施設・機器の整備・補改修
生産性向上、県産飼料の利用、アニマルウェルフェアへ配慮した家畜の飼養管理向上のための施設の補改修及び機器整備の取組を支援
②新技術の導入
簡易妊娠診断(PAG検査)等の新技術の導入支援
③担い手対策

担い手対策の研修会開催等を支援

期間：令和5年度～7年度

(2) 乳用牛群総合改良推進事業

目的：牛群検定及びゲノム検査の推進により乳用牛の改良に努め、低コス

トで高品質な生乳生産による足腰の強い経営体の構築を図る。

内容：①牛群検定普及定着のための研修会や農家指導、優良農家表彰等
②円滑な牛群検定の推進、AT法の導入による牛群検定の効率的な実施、ゲノム検査を活用した効率的な牛群改良の推進

期間：平成18年度～



写真 1

令和6年度岡山県乳用牛群検定審査受賞式
(令和6年6月24日 津山市内)

(3) 「みんなの牧場へ」 ステップアップ事業

目的：公共育成牧場が効率的な飼養管理ができる体制へ転換し、畜産農家の経営安定を目指します。また、県産乳用後継牛増産への構造転換を推進します。さらに、公共育成牧場及び県内の牧場が食育の場として地域貢献することにより、畜産業の理解醸成を図ります。

内容：①公共育成牧場機能強化のための施設等の整備・改修、草地の整備、衛生対策の向上、預託牛の移動等
②牧場体験等の実施のための訪問者用衛生対策設備の整備

期間：平成20年度～



写真2 育成牛舎の防虫ネット整備
(令和5年度 高梁市内)

(4) ジャージーブランド強化促進事業

目的：関係機関がジャージー牛乳に係るマーケティングに一体的に取り組むことでブランド強化を図るとともに、高付加価値製品による収益性の改善につなげます。

内容：①ジャージー牛乳・乳製品のマーケティング、普及啓発
②特色ある生乳の生産体制の整備
③地域の協力体制の構築

期間：令和4年度～6年度



写真3 A2生乳生産者等との意見交換会
(令和6年7月1日 真庭市内)

(5) 衛生検査事業

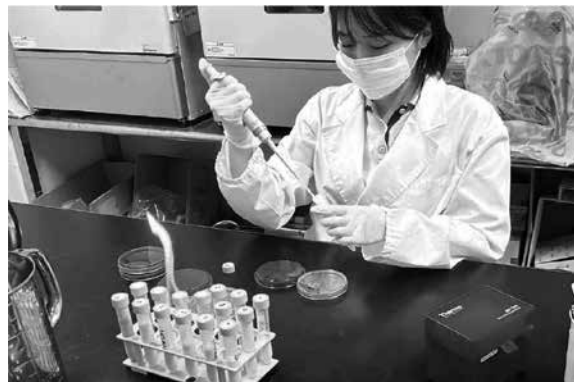


写真4 乳汁検査

目的：関係機関が一体となり、衛生的な搾乳手技や搾乳機器の管理等の指導を行い、安全・安心な生乳の安定供給を図ります。

内容：①県下全戸のバルク乳検査の実施
②重点指導地区における搾乳立会指導、牛舎内環境の改善指導、乳房炎原因菌の同定等
③地域検討会、農家ミーティングの開催

2 消費拡大

牛乳・乳製品の需要については、物価上昇や飲用向け乳価の期中改定に伴う製品価格の値上げにより、消費が低迷しています。

このため、毎年6月の牛乳月間にあわせ、おかやま酪農業協同組合から贈呈された県産牛乳や乳製品を有効活用した消費拡大キャンペーンをはじめ、ジャージーブランド強化促進事業ではA2牛乳を起爆剤としたジャージー牛乳・乳製品のPR活動及び岡山県畜産研究所に隣接する「まきばの館」での消費拡大の啓発活動などに取り組んでいるところです。

今後も11月に開催予定のミルクフェアをはじめ、国や乳業団体等が実施する取組にも歩調を合わせ、牛乳の持つ健康・機能面についてもPRしながら県産牛乳・乳製品の消費拡大に努めます。



写真5

令和6年4月より販売開始したジャージー A2牛乳
(蒜山酪農農業協同組合製品)



写真6 県産牛乳等の贈呈
(令和6年6月3日 県庁内)



写真7 おかやまミルクフェア2023
(令和5年11月3日 岡山市内)

3 支援体制

平成20年から、おかやま酪農業協同組合、岡山県農業共済組合、(一社)岡山県畜産協会及び岡山県で構成する「岡山県酪農経営支援チーム」において、農場の支援を行っています。今年度は昨年度に引き続き、県内酪農業の維持・継続に資するため、支援チームの支援・指導方針を経営・技術支援、生産性向上、国産飼料の普及推進及び担い手育成支援に関する項目を重点取組項目とし、関係機関・部署の連携強化及び認識の共有を図り、必要な時に必要な農場へ迅速な支援ができるよう取り組みを強化します。

これらの取組により、今後も繁殖、飼養管理、乳質の改善に努め、収益性の向上が図られるよう積極的な農家支援を行っていくとともに、担い手の育成を推進し、本県酪農の持続的な発展を目指します。

引き続き皆様の御協力をお願いします。



〔特集〕

飼料価格等高騰に伴う岡山県内畜産の収益動向

一般社団法人 岡山県畜産協会 経営支援部

【酪農経営編】

はじめに

令和2年のコロナ禍、令和4年のウクライナ侵攻といった情勢の変化に伴い、物価高騰や畜産物の消費減退等、畜産経営には厳しい状況が続いています。こうした中、畜産経営の実態を早期に把握し、農家支援や施策につなげるため、県内の畜産農家にご協力いただき、収益動向のとりまとめを行いましたので、その結果を報告します。

なお、本調査は青色申告決算データをもとにしているため、育成牛の評価基準等、経営体ごとに異なる点があることをお断りします。

【酪農】

1. 令和2年から令和5年の推移

(1) 調査対象農家の概要

県内の過半を占めるホルスタインの家

族経営13戸について、令和2年から令和5年の経営調査を行いました。

飼養規模については、おか酪の令和6年2月現況調査の乳用牛1戸当たり経産牛頭数平均42.2頭（大規模経営の多い備南地区を除く）と同程度の30頭から50頭未満の層が一番多くなっています。（表1）

また、令和5年に自給飼料生産を行っていない経営は、13戸中3戸となっています。（公社）中央畜産会の酪農経営類型によると、粗飼料DM自給率が40%以上の経営を草地/耕地依存型、粗飼料DM自給率が40%未満の経営を流通飼料依存型と分類しています。本調査では、経産牛1頭当たりの飼料作付延べ面積が20a以上あれば、この基準を満たしていると仮定し、20a以上の農家を「飼料自給型」経営、20a未満の農家を「購入飼料依存型」経営とします。

表1. 調査農家の経産牛飼養頭数規模の分布（戸）

経産牛頭数規模	R2			R3			R4			R5		
	全体	<20a	20a=	全体	<20a	20a=	全体	<20a	20a=	全体	<20a	20a=
80頭～99.9頭	1		1									
50頭～79.9頭	2			2	3	1	2	3	1	2	4	1
30頭～49.9頭	8	3	5	9	4	5	8	3	5	7	3	4
20頭～29.9頭	2	1	1	1		1	2	1	1	2	1	1
～19.9頭												
計	13	5	8	13	5	8	13	5	8	13	5	8

表2.の経営概況の推移を見ると、令和2年から令和5年にかけて頭数はほぼ横ばいで、経産牛1頭当たりの産乳量は令和5年にやや減少していました。令和5年は2度の乳価の値上げがあったことから、生乳1kg当たりの乳代は、令和4年より13円上がっています。飼料高騰を受け飼料生産

を拡大・再開する経営もあり、飼料作付け面積は増加傾向にあります。

経産牛1頭当たりの所得では、令和4年比52%の増、金額にすると59,866円/頭の増となっていました。乳価の値上げでやや回復したものの、依然、令和2年・3年の水準を下回っている状況です。

表2. 経営概況の推移

	R2	R3	R4	R5	R5/R4
経産牛頭数	44.2 頭	44.8 頭	44.6 頭	44.3 頭	100.0%
産乳量/頭	9,432kg	9,525kg	9,566kg	9,374kg	98.0%
乳代/kg	125.99 円	126.36 円	127.63 円	140.64 円	110.2%
飼料作付面積/頭	26.3a	26.8a	31.6a	31.9a	+100.8%
所得/頭	231,679 円	205,495 円	113,753 円	173,618 円	152.6%

経営類型別に産乳量を示したものが表3です。経産牛1頭当たり年間産乳量は、ほぼ8,000kg台～10,000kg台に分布していま

す。令和5年は乳量が落ちたものの、飼料自給型でも1万kg以上を維持している経営もありました。

表3. 経産牛1頭当たり年間産乳量の分布（戸）

1頭当り乳量階層	R2			R3			R4			R5		
	全体	<20a	20a=<	全体	<20a	20a=<	全体	<20a	20a=<	全体	<20a	20a=<
11,000kg～				1		1	1		1			
10,000kg～10,999kg	5	1	4	4	1	3	3	1	2	3	1	2
9,000kg～9,999kg	3	1	2	3	2	1	5	2	3	5	1	4
8,000kg～8,999kg	3	2	1	5	2	3	4	2	2	5	3	2
7,000kg～7,999kg	2	1	1									
計	13	5	8	13	5	8	13	5	8	13	5	8

続いて、経営類型別の所得について見ていきます。表4では、令和5年は購入飼料依存型で、所得が2極化しています。一方、飼料自給型は、令和4年に一旦落ち込んだ

所得が上位層に上がっています。

また、令和2～4年までは赤字の経営もありましたが、令和5年には赤字が解消されていました。

表4. 経産牛1頭当たり所得の分布（戸）

1頭当たり所得	R2			R3			R4			R5		
	全体	<20a	20a=<	全体	<20a	20a=<	全体	<20a	20a=<	全体	<20a	20a=<
400千円～	2		2	3	1	2				2	1	1
300千円～399千円	1	1					2		2	1		1
200千円～299千円	5	1	4	4	1	3				1		1
100千円～199千円	2	1	1	3	2	1	4	1	3	4		4
0千円～99千円	2	2		2		2	5	2	3	5	4	1
～0千円	1		1	1	1		2	2				
計	13	5	8	13	5	8	13	5	8	13	5	8

ここで、儲かっている経営とはどの程度かを考えてみます。賃金構造基本統計調査によれば、岡山県の10人以上の企業に勤めている場合の平均年収(賞与含む)は、男性5,160千円、女性3,772千円です。つまり、夫婦共働きの家庭では8,932千円となります。これを酪農経営に置き換えると、

平均頭数の44頭を夫婦2人で飼っている仮定した場合、1頭当たり203千円の所得があれば、一般企業で働いているのと同程度の所得が得られることになります。そのラインが図1中の点線です。乳量が多い経営は所得が高いという傾向が見られます。

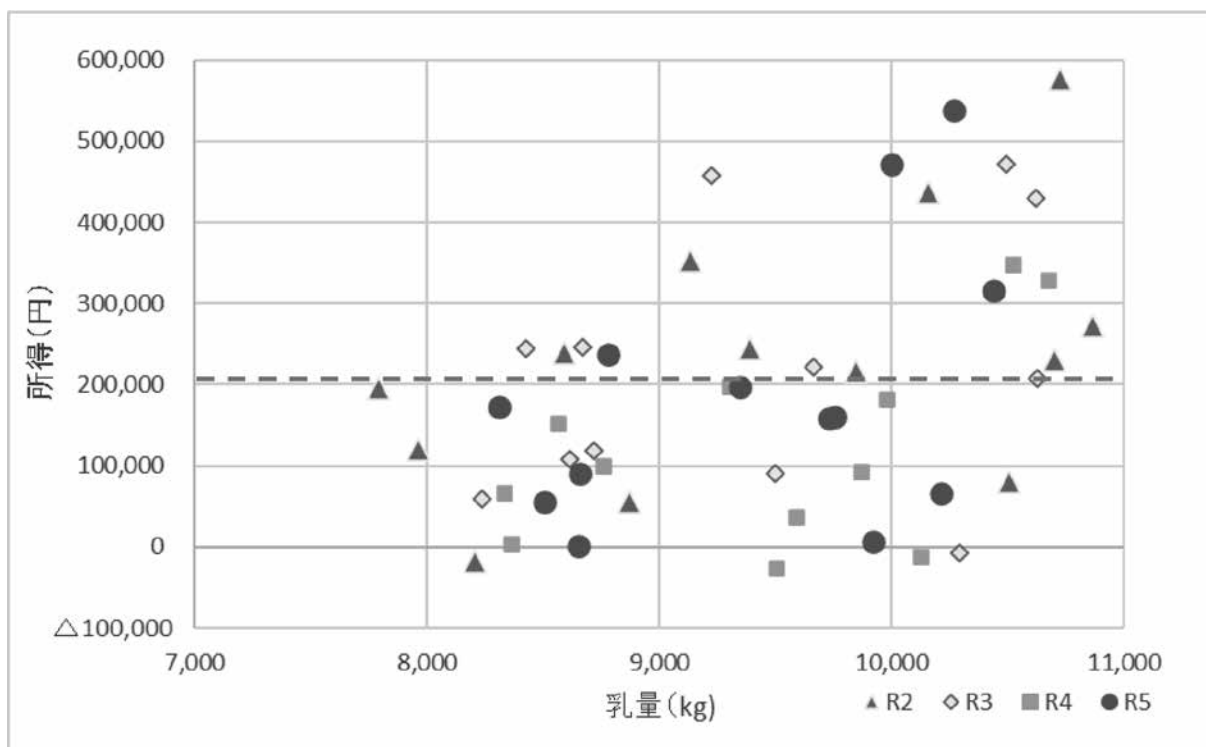


図1. 経産牛1頭当たり年間産乳量と経産牛1頭当たり所得の分布

(2) 収支動向

続いて、費目ごとに全体の収支状況をみていきます（表5）。収入は、乳価の値上げを受け、令和5年の生乳売上は令和4年比8.0%増の1,318,367円となりました。副産物価格の下落により、子牛・堆肥売上は31.5%減となったものの、雑収入の増もあり、合計は、令和4年比6.4%増、金額にして96,913円の増でした。

経費については、大幅に増加した費目もありますが、経費全体に占める割合の高い購入飼料費が0.1%増に留まったことから、合計は、2.6%増、金額にして37,047円の増となりました。

結果、所得は59,866円増え、52.6%増となりました。

表5. 経産牛1頭当たり収支動向(円)

科 目			区分	R2	R3	R4	R5	R5/R4	
収入金額	販売金額	生乳	1	1,188,341	1,203,624	1,220,812	1,318,367	108.0%	
		水稻・野菜		2,064	1,923	2,307	1,500	65.0%	
		子牛・堆肥		123,110	97,840	93,424	63,999	68.5%	
	家事・事業消費金額		2	504	443	1,110	1,247	112.3%	
	処分益		3	10,395	18,620	20,665	22,258	107.7%	
	雑収入		4	91,720	136,569	184,846	212,706	115.1%	
	小計(1+2+3+4)		5	1,416,135	1,459,018	1,523,164	1,620,077	106.4%	
	農産物の棚卸高	期首	6	0	0	0	0		
期末		7	0	0	0	0			
計(5-6+7)			8	1,416,135	1,459,018	1,523,164	1,620,077	106.4%	
経費	租税公課		9	33,255	27,183	27,105	25,737	95.0%	
	種苗費		10	4,404	3,924	4,970	7,312	147.1%	
	素畜費		11	18,824	2,614	3,144	7,866	250.2%	
	肥料費		12	4,822	6,669	9,164	12,165	132.8%	
	飼料費		13	584,870	640,031	771,124	771,709	100.1%	
	農具費		14	5,660	6,292	11,038	8,576	77.7%	
	農業衛生費		15	38,827	43,203	41,233	39,849	96.6%	
	諸材料費		16	34,447	29,365	29,376	27,795	94.6%	
	修繕費		17	62,459	68,579	59,484	72,159	121.3%	
	動力光熱費		18	52,308	53,656	66,244	61,955	93.5%	
	作業用衣料費		19	1,250	1,830	1,868	1,269	68.0%	
	農業共済掛金		20	31,048	29,754	30,149	32,921	109.2%	
	減価償却費		21	175,642	184,470	197,134	203,121	103.0%	
	荷造り運賃手数料		22	114,240	113,030	112,358	119,386	106.3%	
	雇人費		23	16,648	14,922	15,460	21,487	139.0%	
	利子割引料		24	1,362	1,121	733	970	132.3%	
	地代・賃借料		25	31,556	24,933	29,917	26,860	89.8%	
	土地改良費		26	1,173	1,384	2,423	2,739	113.0%	
	種付・登録料		27	23,994	19,828	20,369	19,840	97.4%	
	通信費		28	1,593	970	3,240	2,277	70.3%	
	処分損		29	13,217	11,664	10,634	18,373	172.8%	
	預託費		30	27,943	32,891	29,957	37,149	124.0%	
	雑費		31	35,693	40,835	31,510	35,484	112.6%	
	小計		32	1,315,234	1,359,148	1,508,634	1,556,999	103.2%	
	農産物以外の棚卸高	期首	33	3,026	6,250	6,531	10,024	153.5%	
		期末	34	5,747	6,588	9,958	6,677	67.1%	
	経費から差し引く育成費用			35	128,057	105,287	95,796	113,887	118.9%
	計(32+33-34-35)			36	1,184,456	1,253,523	1,409,411	1,446,459	102.6%
	差引農業所得金額(8-36)			37	231,679	205,495	113,753	173,618	152.6%
生産原価				84.6	95.0	111.6	119.2	106.8%	
総原価				125.6	131.6	147.3	154.3	104.7%	
生乳1kg当たり販売単価				126.0	126.4	127.6	140.6	110.2%	
生乳1kg当たり生産原価				84.6	95.0	111.6	119.2	106.8%	
乳飼比				49%	53%	63%	59%		
購入飼料費÷売上原価				63%	64%	66%	65%		
購入飼料費÷生産費用				56%	58%	61%	60%		

2. 令和6年の経営環境

(1) 収入要因

①乳価

表6として、令和6年の乳代の試算表を載せています。令和5年4月の加工原料乳向け10円値上げ、8月の飲用牛乳等向け10円値上げが12か月分反映されるため、産乳量を令和5年と同量と仮定した場合、経産牛1頭当たりの生乳売上は1,368,989円と予想されます。

表6. 乳価試算表

	R4実績	R5実績	R6試算	前年比
乳代/頭	1,220,812円	1,318,367円	1,368,989円	103.8%
乳量/頭	9,566kg	9,374kg	9,374kg	±0
乳代/kg	127.6円	140.6円	146.0円	103.8%

②副産物価格

ホルスタインのヌレ子は雄雌とも、令和3年以降下落が続いていました。今後の予測としては、令和5年に交雑、和牛ETの生産が増加したことや、円安によ

り国産ホルスタイン牛肉の需要が増えて
いることから、令和6年は回復が見込ま
れます。

交雑に関しては、夏頃に価格が上がり、
また下がるサイクルを繰り返しており、

9月以降は価格の下落が予想されます。
また、年始の価格の低さが響き、令和6
年平均価格は令和5年を下回る値で着地
するものと思われます。

表7. 全農家畜市場（一般市）の副産物平均価格（税込）

	R2	R3	R4	R5	R6(～7.16)
ホル廃用	237,918 円	246,378 円	202,694 円	210,441 円	228,259 円
ホル雌ヌレ子	126,038 円	123,636 円	44,739 円	38,133 円	60,363 円
ホル雄ヌレ子	98,533 円	82,638 円	60,416 円	27,874 円	37,194 円
交雑ヌレ子	227,530 円	208,244 円	154,932 円	119,681 円	151,565 円

（2）費用要因

①飼料価格

おか酪SPにおける飼料価格を見ると、乾
草は令和4年11月をピークにやや下がった
ものの、令和3年以前の水準を上回って推
移しています。配合飼料はウクライナ情勢
を受け令和4年以降高騰しており、令和5
年には、南米産とうもろこしの豊作や米
国産とうもろこしの生産状況により、低
下傾向がみられるものの、依然高値で推
移しています。

②為替変動

飼料価格への影響の大きい為替相場の変
動ですが、令和4年10月に米国の金利の上
昇等により急速な円安となりました。令和
6年8月には141円／ドルと一時的に円高
に振れたものの、その後は円安傾向に戻っ
ています。

（3）所得試算

乳代が3.8%増で、その他費用等が令和5
年と同等であるとした場合の令和6年の所
得は、224,240円／頭と見込まれ、令和2
年には及びませんが、先程のラインは超え
る額となります。

3. 酪農経営を維持するために

購入飼料費は高止まりで推移しており、
円安は令和6年も続く見通しであること

から、飼料費の低減は期待できません。

このような状況下でも高所得を維持で
きているのは、高乳量かつ飼料費の低い
経営です。

（1）乳量の確保

副産物価格の低迷が続いている現状で
は、飼料・資材等の高騰分を吸収するには
乳量の確保による収入の増が最も実効性
があります。ゲノム解析による牛群改良に
加え、乳牛の能力を最大限に発揮引き出
すために、繁殖改善や疾病予防、暑熱対
策など、経営の課題に応じた取組みをす
すすめていくことが喫緊の課題です。

一方で価格転嫁により、大手スーパー
では牛乳の購買の落ち込みも見られてお
り、消費者も含めた業界全体での取組み
も必要となります。

（2）県産自給飼料の活用

既に自給飼料生産に取り組んでいる経営
はさらなる面積の拡大、生産していない
経営には生産者とのマッチング支援が求
められます。また、生産者側への飼料の
高品質平準化のための指導や定時定量
供給ができる体制の構築、再生産可能
な価格の設定も重要です。

あわせて、乳量（・乳質）と飼料費の
削減を両立させるには、個々の農家の
労働力、飼養形態などに見合ったフォ
ローアップが必要です。

【肉用牛繁殖経営編】

はじめに

肉用子牛価格は、平成24年度以降、繁殖雌牛の減少による子牛生産頭数の減少や枝肉価格の上昇に伴い高値で推移しました。しかし、令和2年2月以降、新型コロナウイルス感染症の拡大や物価の上昇による消費意欲の減退で牛肉の消費量は減少し、これに伴う枝肉価格の低迷により子牛価格が下落している状況です。

このような中、当協会では、経営支援はもちろんのこと、今後の施策や支援方針につなげることを目的に、直近3年間の経営データを収集・分析しましたので、その結果を報告します。

なお、「酪農経営」同様、青色申告決算書をもとにしているため、育成牛の評価基準等、経営体ごとに異なる点があることをお断りします。

1. 調査対象経営

本年度も3年間（令和3年、4年及び5年）の決算データがすべて存在する10経営（昨年度と同一）について、分析可能な項目を比較しました。

表1のとおり、経営者の所在地は比較的分散しており、平均飼養頭数は県平均15.3頭（R5県頭羽数調査）を上回る規模となっています。

表1.成雌牛飼養頭数の分布

（単位：戸）

区 分	R3	R4	R5	備 考
50 頭以上	1	1	1	地域（JA）別 びほく・新見：3 戸 真庭：4 戸 津山・勝英：2 戸 その他：1 戸
40 頭以上 50 頭未満	1	1	1	
30 頭以上 40 頭未満	0	0	0	
20 頭以上 30 頭未満	3	2	3	
10 頭以上 20 頭未満	4	5	4	
10 頭未満	1	1	1	その他：1 戸
合 計	10	10	10	毎年同一
平均飼養頭数	23.8	24.9	24.7	頭

2. 繁殖経営における収益性

表2のとおり、令和5年における成雌牛1頭当たりの収入は619千円で、前年比95%となっています。

内訳は、子牛販売金額が469千円で前年比89%となっており、枝肉価格の低下や飼料高騰による肥育経営の購買意欲の低下が主たる要因です。

一方、雑収入は、飼料高騰緊急支援対策や子牛補給金などの補助金の増加

により前年比114%となっています。

また、同経費は、飼料費と農薬衛生費がそれぞれ前年比113%、114%増となっています。

一方、諸材料費と動力光熱費は減少していますが、経費全体に占める割合が48.7%である飼料費の影響により、全体としては前年比108%増の592千円となっています。

表2.概要及び収支動向等

項 目		単位	R3	R4	R5	R5/R4
集計対象件数		戸	10	10	10	100%
成雌牛飼養頭数平均		頭	23.8	24.9	24.7	99%
子牛販売頭数		頭	19.2	19.4	20.3	105%
成雌牛1頭当たり販売頭数		頭	0.81	0.78	0.86	111%
子牛1頭当たり販売価格		千円	769	673	571	85%
全農総合家畜市場平均価格		千円	732	654	537	82%
成雌牛 1頭 当 た り	子牛販売金額	千円	622	525	469	89%
	雑収入	千円	79	89	101	114%
	収入金額合計	千円	746	649	619	95%
	飼料費	千円	216	254	288	113%
	経費全体に占める割合	%	40.7	46.4	48.7	105%
	農薬衛生費	千円	28	25	28	114%
	諸材料費	千円	21	26	21	79%
	動力光熱費	千円	22	25	24	96%
	荷造り運賃手数料	千円	31	29	27	93%
	経費合計	千円	530	548	592	108%
	所得	千円	215	101	27	26%
販売子牛1頭当たり生産原価		千円	525	576	585	102%
同 総原価		千円	656	701	720	103%
所得率		%	28.9	15.6	4.3	27%

これらのことから、令和5年の所得は、令和4年の101千円から27千円まで低下し（前年比26%）、令和3年の215千円と比較すると、実に12%まで大幅に減少しています。

3. 成雌牛1頭当たりの購入飼料費

各経営の分布は表3のとおりです。飼料価格の高騰に伴い、令和5年と令和3年の比較では、全ての農家が上の階層にスライドしています。自給飼料の増産など飼料費の低減に努めている経営はあるものの、個別での飼料高騰対策には、限界があるのではないのでしょうか。

表3.成雌牛1頭当たり飼料費の分布

(単位：戸)

区 分	R3	R4	R5	備 考
450 千円以上	0	1	0	
400 千円以上 450 千円未満	0	1	2	
350 千円以上 400 千円未満	1	0	2	
300 千円以上 350 千円未満	1	2	1	
250 千円以上 300 千円未満	1	1	2	
200 千円以上 250 千円未満	3	2	2	
150 千円以上 200 千円未満	3	2	1	
100 千円以上 150 千円未満	1	1	0	
成雌牛1頭当たり平均飼料費	216.0	254.1	288.0	千円

さらに、図1では、成雌牛1頭当たりの作付面積と所得の関係を示しています。

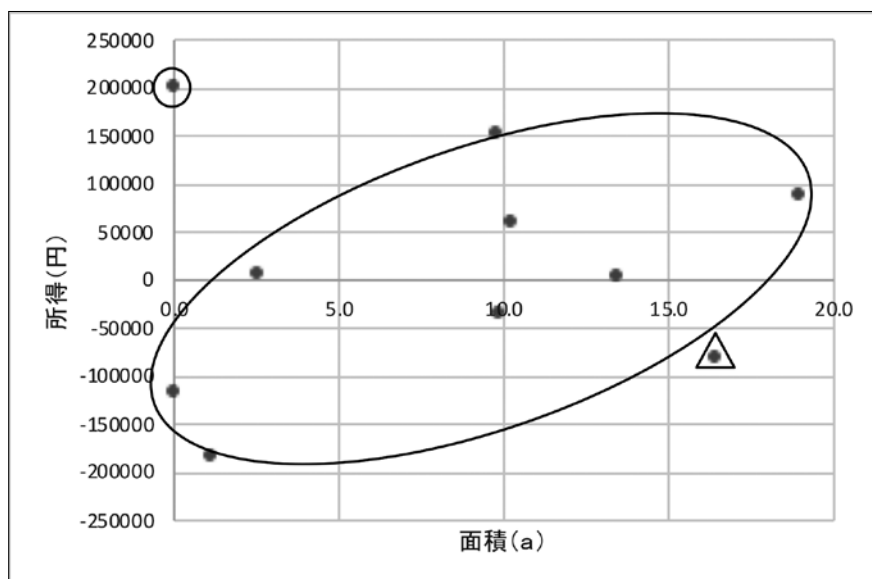
昨年より顕著ではないものの、自給飼料を確保している経営は、所得も大きい傾向にあります。

なお、作付面積はないが所得が大きい

経営は、購入飼料費の増加を上回る販売収入を得ており、血統や繁殖管理、育成技術など圧倒的な強みを持っています。

一方、作付面積は大きいが所得がマイナスの経営は、購入飼料費は少ないものの、子牛1頭当たりの販売価格が小さいことが大きな要因となっています。

図1.作付面積と所得の関係



4. 成雌牛1頭当たりの子牛販売頭数と分娩間隔

表4のとおり、子牛販売頭数は令和4年に減少したものの、令和5年は0.863頭に増加しています。

酪農経営と連携した受精卵移植の活用により、成雌牛頭数以上の子牛販売を行った経営が3戸ある一方、子牛販売頭数0.5頭以上0.6頭未満の経営は、小規模

から成雌牛導入による規模拡大を行ったものの、当年中の販売頭数の増には至らず、極端に少なくなっています。

また、表5に示している分娩間隔では、1年1産を実施している経営がある一方、440日以上の間隔が2戸もあり、平均値は県平均（412.8日 13.57ヵ月）より高い数値となっていますが、バラツキは極めて大きい状況です。

表4.成雌牛1頭当たり販売頭数の分布

(単位：戸)

区 分	R3	R4	R5	備 考
1.0 頭以上	0	2	3	ET 活用
0.9 頭以上 1.0 頭未満	2	1	0	
0.8 頭以上 0.9 頭未満	4	2	3	
0.7 頭以上 0.8 頭未満	2	3	3	
0.6 頭以上 0.7 頭未満	1	1	0	
0.5 頭以上 0.6 頭未満	0	0	1	
0.5 頭未満	1	1	0	
平均販売頭数	0.808	0.781	0.863	頭
1 経営当たり平均販売頭数	19.2	19.4	20.3	頭

表5.分娩間隔の分布

(単位：戸)

区 分	通算	備 考
440 日以上	2	
430 日以上 440 日未満	1	
420 日以上 430 日未満	1	
410 日以上 420 日未満	0	
400 日以上 410 日未満	0	
390 日以上 400 日未満	2	
380 日以上 390 日未満	2	
370 日以上 380 日未満	1	
360 日以上 370 日未満	0	
350 日以上 360 日未満	1	
平均販売頭数	398.5	日 (13.11 ヲ月) 県平均：412.8 日 (13.57 ヲ月)

5. 所得比較

所得上位3位（以下「ア」とする）
までと所得下位3位（以下「イ」とする）
までの経営体について比較を行ったのが表6です。

まず、成雌牛1頭当たりの収入合計金額は「ア」が746千円、「イ」が642千円で、104千円の差となっており、子牛1頭当たりの販売価格では、120千円の差が出ています。

また、分娩間隔は、「ア」が376.63日、「イ」が424.99日となっており、48.36日の差があります。

同経費については、「ア」が664千円、「イ」が814千円で、150千円の差となっており、飼料費については、「ア」が277千円、「イ」が365千円で、88千円の差があります。「ア」は、受胎率の向上対策や早期治療などにより農薬衛生費が「イ」を上回っていますが、きめ細かい管理をすることで分

娩間隔の短縮にもつなげており、販売金額を確保することができていると思われます。また、飼料費の差は、自給飼料作付面積によることや子牛の発育が遅れることによる育成期間の延長も一要因と考えられます。子牛市場における購買基準としても日増体重は重視されるため、子牛の管理には細心の注意が必要です。

表6.経営比較

項 目		単位	所得上位 3 位 (ア)	所得下位 3 位 (イ)	(ア)－(イ)
成雌牛飼養頭数平均		頭	26	16	
子牛販売頭数		頭	23	13	
成雌牛1頭当たり販売頭数		頭	0.96	0.93	
子牛1頭当たり販売価格		千円	651	531	120
成 雌 牛 1 頭 当 た り	子牛販売金額	千円	630	513	117
	雑収入	千円	92	87	5
	収入金額合計	千円	746	642	104
	飼料費	千円	277	365	-88
	農薬衛生費	千円	38	27	11
	諸材料費	千円	19	18	1
	動力光熱費	千円	32	33	-1
	荷造り運賃手数料	千円	32	31	1
	経費合計	千円	664	814	-150
所得		千円	148	-126	-22
販売子牛1頭当たり生産原価		千円	513	686	-173
同 総原価		千円	630	811	-181
所得率		%	19.4	-19.7	
分娩間隔		日	376.63	424.99	48.36

6. 収支予測

直近3年間の実績と令和6年の子牛市場価格を踏まえ、令和6年における経営収支を試算したのが表7です。

R6①は、年間の市場平均価格が令和6年1～6月期相当の520千円とした場合で、成雌牛1頭当たりの子牛販売価格は445千円となり、また同雑収入は、子牛補給金制度などの補助金収入を123千円と想定したところ、収入金額合計は607千円と試算されます。

一方、同経費合計は、備考に記載の内容で想定したところ589千円となり、同所得は18千円と試算され、令和5年と比較してさらに厳しい状況となっています。

また、R6②は、調査対象経営とは異なり、子牛1頭当たりの販売価格が市場平均価格とした場合ですが、成雌牛1頭当たりの所得が－7千円と試算され、経営継続は極めて困難な状況が予想されます。

表7.収支予測

項 目	単 位	R5	R6①	R6②	備考
全農総合家畜市場平均価格	千円	537	520	520	1～6月期平均
子牛1頭当たり販売価格(A)	千円	571	553	520	① R5 対市場価格比 ② 市場平均価格
成雌牛1頭当たり子牛販売頭数(B)	頭	0.82	0.80	0.80	3ヵ年平均
子牛販売金額	千円	469	445	418	A×B
雑収入	千円	101	123	123	補給金等考慮
収入金額合計	千円	619	607	581	上記項目以外3ヵ年平均
飼料費	千円	288	288	288	令和5年値
農業衛生費	千円	28	28	28	〃
諸材料費	千円	21	21	21	〃
動力光熱費	千円	24	24	24	〃
荷造り運賃手数料	千円	27	24	23	価格連動
経費合計	千円	592	589	588	上記項目以外3ヵ年平均
所得	千円	27	18	-7	
販売子牛1頭当たり生産原価	千円	585	594	593	
同 総原価	千円	720	733	732	
所得率	%	4.3	3.0	-1.2	

7. 肉用牛繁殖経営を維持するために

令和2年10月以降、飼料価格やその他資材の高騰、その後の高止まりにより脆弱な経営となっている状態で迎えた令和5年は、さらなる子牛価格の下落により、成雌牛1頭当たりの所得は前年比26%と厳しい状況となっています。

ただ、このような状況においても、分娩間隔の短縮や事故の低減、子牛の資質向上を継続的に取り組んできた経営は、足腰が強く、一定の所得を収めています。

やはり、飼料費高騰の中、経費においては、購入飼料費の削減が、最重要課題と言え、自給飼料率の向上や国産粗飼料の活用による低コスト化は、必須項目です。国産粗飼料の活用については、個別での取り組みというよりも、業種を超え、耕種農家とも連携し、地域での取り組み

が必要です。ここには、関係機関の支援が不可欠になるのではないのでしょうか。

一方、収入においては、「良い子牛をいかに多く販売するか」が重要です。当県には、「岡山和牛子牛資質向上対策協議会」が設置されています。地域部会を核とした巡回指導を通じて、哺育育成技術の向上と適正な飼育管理により、「おかやま四ツ☆子牛」を目指し、さらに、育種価やゲノミック評価を活用した優良成雌牛群の整備も必要と考えます。

引き続き、関係機関が一丸となって、この難局に向き合い、各種対策に真摯に取り組んでいくことは言うまでもありません。

今一度、基本に立ち返り、できることから始めてみませんか。

乳用育成牛への稲WCSの給与について

岡山県農林水産総合センター 畜産研究所 飼養管理研究グループ

1 県内の稲WCS生産状況

本県の稲WCSの生産は、飼料自給率の向上と転作田の有効活用のために初めて取り組みが開始されてから約25年が経過しました。

この間、稲WCSの作付面積は毎年順調に拡大してきましたが、利用する畜産農家数の伸び悩み等から一時期作付面積が減少した時期があったものの、最近では輸入乾草の価格高騰等により需要量が増加し、再び作付面積は拡大しています（図1）。

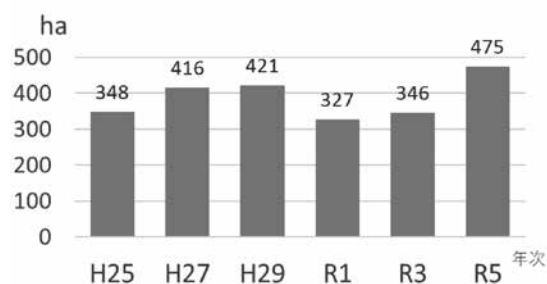


図1 県内のWCS用稲の作付面積 (ha)

2 稲WCSの飼料価値

稲WCS（専用品種）のTDN（可消化養分総量）はスーダングラスやチモシーと遜色なく、CP（粗蛋白質）含量がやや低いものの（表1）、これらの輸入乾草との代替が十分に可能と考えられます。

表1. 飼料成分の比較

飼料名	水分 (%)	CP (乾物%)	NDFom (乾物%)	TDN (乾物%)
稲WCS (飼料用品種・黄熟期)	61.0	5.8	48.3	54.0
スーダングラス	10.3	8.6	67.9	52.2
輸入乾草 チモシー	11.1	7.6	66.6	54.4
アルファルファ	12.0	18.5	44.1	56.8

※参考 日本飼養標準2017年度版

また、岡山県内で流通している平均的な稲WCSのロールは約300～350kgで、運搬費を含めた価格については様々な設定がありますが、約5,000円～7,500円程度で販売されています。稲WCSとスーダングラス(輸入)の価格比較を表2に示しました。

表2. 価格の比較

飼料名	水分 (%)	原物単価 (/原物kg)	乾物単価 (/乾物kg)
稲WCS (飼料用品種・黄熟期)	61.0%	19.2円	49.3円
輸入乾草 スーダングラス	10.3%	101.5円	113.2円

※稲WCS：ロール重量325kg、ロール価格6,250円として計算

※スーダングラス：畜産研究所調べ

このように稲WCSは輸入乾草と遜色ない栄養価があり、しかも安価な県産飼料と言えます。

3 稲WCSの乳用育成牛への給与試験

乳用牛への稲WCSの給与ですが、これまで主に搾乳牛等への給与試験が多く、育成牛への稲WCSの給与方法に関する研究報告は余りありません。

そのため、当研究所では稲WCSを用いた乳用育成牛の低コスト育成方法を確立するため、次のような給与試験に取り組んでおり、現在までの結果を報告します。

(試験概要)

試験は8～15ヵ月齢の乳用育成牛を対象に、粗飼料の輸入乾草のうち約7割（乾物当たり）を稲WCSに置き換えた試験区と全量輸入乾草を給与する対照区を比較して発育成績・繁殖成績・飼料費削減効果を

調査しました。

①給与メニュー

給与メニューは表3のとおりで、稲WCSを8ヵ月齢で14.9kg/日(原物)、15ヵ月齢で20.1kg/日(原物)給与しています。写真1は試験時の稲WCSの給与風景です。

表3. 給与メニュー (原物)

試験区分	月齢	濃厚飼料(kg)		粗飼料(kg)		
		育成配合	添加剤	稲WCS	チモシー	スーダン
試験区	8	2.0	1.0	14.9	1.6	0.5
	15	2.0	1.0	20.1	2.2	0.7
対照区	8	2.0	1.0		4.5	2.0
	15	2.0	1.0		7.5	2.5



写真1. 稲WCSの給与風景

②発育成績

発育成績は表4のとおりで、体重・体高・日増体量において、両区に有意な差は見られず、稲WCSを輸入乾草の約7割に置き換えても同等の発育を示しました。

表4. 発育成績

月齢	試験区分	体重(kg)	体高(cm)	日増体量(kg/日)
8	試験区	303.8 ± 15.7	123.5 ± 2.7	-
	対照区	314.3 ± 25.0	124.5 ± 2.5	-
15	試験区	495.7 ± 26.3	141.7 ± 2.5	0.92 ± 0.07
	対照区	515.5 ± 39.9	141.1 ± 3.4	0.95 ± 0.09

※試験区:n=6、対照区:n=6、mean ± S.D.

※ t 検定、p<0.05、全項目において両区に有意差なし

③繁殖成績

繁殖成績を調査中ですが、現在までの結果を表5に示しました。初回黄体形成月齢、授精回数、受胎月齢において、両区に有意な差は見られず、輸入乾草と同等の繁殖成績を得られることがわかりました。

表5. 繁殖成績

試験区分	初回黄体形成月齢(ヵ月)	授精回数(回)	受胎月齢(ヵ月)
試験区	9.1 ± 0.6	1.7 ± 0.8	13.5 ± 1.1
対照区	8.8 ± 0.6	2.0 ± 1.3	13.4 ± 1.1

※試験区:n=6、対照区:n=5、mean ± S.D.

※ t 検定、p<0.05、全項目において両区に有意差なし

④飼料費削減効果

8～15ヵ月齢の試験期間中の1日当たりの平均飼料費を表6に示しました。稲WCSの利用により飼料削減効果は50.9%となり、輸入乾草の半分以上のコストに抑えることができました。

表6. 飼料費削減効果

	飼料費	削減率
試験区	596円	50.9%
対照区	1,170円	

※試験中(8～15ヵ月齢)の1日1頭当たりの飼料費

4 まとめと今後

これらのことから、今回の給与メニューにおいて、輸入乾草の約7割を稲WCSに置き換えても、発育や繁殖成績に影響を与えず、また育成牛の飼料コストを半分以上に抑制できることが分かりました。

今後は乳用育成牛の飼養コストをさらに抑制することを目標に、より飼料費を抑えた給与メニューを検討し、試験を実施する予定にしています。

〔県民局だより〕

デントコーン×プラソイラが登場しました！

備中県民局畜産第一班

はじめに

笠岡湾干拓地は県内乳用牛頭数の約3割（5,390頭）が集中する酪農団地が形成されており、大規模な肉用牛肥育経営（5,066頭）も展開されています。ここでは飼料作物の栽培も行われており、イタリアンライグラス、ソルゴー、飼料用トウモロコシ等があります。特にソルゴーの栽培面積は59haで県全体の2割、飼料用トウモロコシの栽培面積は288haで県全体の5割を占めており、県内有数の自給飼料生産地となっています。

しかし令和5年度、飼料用トウモロコシ、イタリアンライグラス等牧草の収量が著しく低下しました。要因としては春季の多雨、夏期の干ばつといった天候不順、イノシシの侵入、ツマジロクサヨトウの発生等が挙げられますが、それだけでなく干拓地特有の土壌の問題も考えられます。

干拓地では長年の大型農業機械での作業の繰り返しにより土壌が踏み固められ、土壌の下層部が固くなる「耕盤層」が形成されることで水抜けが悪くなり、作物の成育が阻害されている懸念があります。土壌の問題や近年の異常気象も考慮すると、令和6年度の播種シーズンを迎える前にできる限りの対策を取るべきだと考えました。

そこで各方面に相談したところ、土壌の排水性を改良するためにはプラソイラが有効というアドバイスがあり、活用を検討することとなりました。



干拓地の飼料用トウモロコシのほ場

1. プラソイラとは

プラソイラは下層土を表層に持ち上げ、溝周囲の心土から土壌表層にかけて攪拌して土壌構造を改善するプラウと、耕盤層を破壊して心土に亀裂を入れるサブソイラの機能を併せ持つ作業機です。一般的な作業の深さはロータリーが15cm、プラウが30cmなのに対し、サブソイラは50cmまで到達することができます。



プラソイラ

下に硬い耕盤層がある状態で雨が降ると上層はいつまでも水が溜まるスポンジ状になり、長時間浸水されることで生育不良が引き起こされます。また、耕盤層があると根が深く入らず浅くなってしまいます。そ

れだけでなく、干ばつ時には地下から上昇してくる水分が耕盤層に遮られ、土壌表面に上がってくるスピードが非常に遅くなります。トウモロコシ栽培では土壌の排水性が非常に重要であり、排水良好な土づくりを行うことが大切ですが、プラソイラを活用することで、これらの改善が期待できます。実際、九州での実証試験ではロータリーのみだと1時間後もほとんど水が抜けない反面、プラソイラ実施後は15分でほとんど水が抜けたことが確認されています。

また、プラソイラは穴を開けながら表面の土をかき混ぜるので、その後のハローの燃料消費も抑えることができます。

試験を行った地域ではその有効性が実証され、年間260haのトウモロコシほ場で活用されるようになっていきます。

2. 勉強会の開催

令和6年2月上旬に勉強会を開催し、干拓の酪農家7戸が参加しました。まず県民局から令和5年度の飼料作物の収穫状況、現状の課題について説明し、次に講師にお招きした種苗会社の先生に今後の飼料作物栽培について具体的提案をお話いただきました。その後、実際に干拓地内のほ場でデモ機によるプラソイラ実演も行いました。



勉強会の様子

実演前に角スコップでは場の土を掘り返したところ、地中30cmからカチカチでスコップが入りませんでした。次にプラソイ

ラで走ったところ、爪が55cm程度の深度で地中に入り、地下の耕盤層（硬い粘土状）が掘り起こされて出てきました。耕盤層が破壊されたことで、スコップも深くまで入るようになりました。



プラソイラ実演



スコップで土の硬さを確認

実演を交えたこともあり、情報交換・質疑の絶えない活気のある勉強会となりました。

3. まとめ

勉強会の反響は大きく、参加者の中にはプラソイラを実際に導入、また導入を検討中の方も出てきています。土壌の排水改良を行うことで、高品質な自給飼料の安定確保が期待されます。

今後、プラソイラが干拓地内に定着していくことを期待しています。

〔共済フレッシュさん〕

産業動物獣医師として三年目を迎えて

美作家畜診療所 蒜山出張所 齋喜 宣孝

はじめまして。農業共済組合 美作家畜診療所 蒜山出張所に勤めている、齋喜宣孝と申します。今年で3年目になり、診療にも慣れ、できることが増えてきたのと同時に、日々技術等の未熟さも実感しています。そんな私について、この場をお借りして自己紹介をさせていただこうと思います。

出身は神奈川県で、体を動かすことは好きだったものの、あまり勉強が好きじゃなく、自由気ままな学生生活を送っていました。今となっては、もっと高校時代に勉強をしておけば良かったなと思います。大学は北海道の酪農学園大学に進学し、始めて親元を離れ生活しました。私立かつ一人暮らしということで両親にはとても感謝しています。大学時代は勉強で苦労したものの、休日や長期休みに旅行に行くことが趣味になりました。特に北海道を友達とドライブし、その地域の特産品や、季節ごとの催しのために遠出をしていました。その甲斐もあって長時間の運転も苦になることが少なく、車を運転して診療に行くというスタイルの産業動物獣医師は自分に合っているのではないかと考えるようになりました。

初めて臨床実習に行ったのは4年生の時に、兵庫県の但馬の家畜診療所にお世話になりました。そこで見た和牛子牛の可愛さはもちろんのこと、優しい農家さん、先輩獣医師の姿を拝見し、真剣に産業動物獣医師を目指そうと考えました。しかし、その当時の私は臨床現場にとてつもない不安がありました。それは私自身、血を見るのがとても苦手だったということです。1年生の時に献血中に意識が飛んでしまったり、

はたまた、その1週間後には観血去勢の見学中に意識が飛んでしまったりと、とても臨床獣医師には向いていませんでした。それを特に意識してしまったのは、5年生の時に臨床実習に行った時のことでした。その実習中で肥育牛の尿石症に対する尿道造瘻術を行う機会があり、手術助手に入ったのですが、術中に気持ちとは裏腹に意識が朦朧としてしまい、気がついたら手術が終わっていました。このような自分が臨床現場でやっていけるのかとても不安がありましたが、目指そうと決めたからには努力をしようということで、スプラッター動画や手術動画等を見て心を慣らしたのは、今では良い思い出の一つとなっています。



熱海にて

実際に産業動物獣医師として働きだし、日々色々な牛を診療し、手術をし、血に対する抵抗も減り(未だに自分の採血を見るのは苦手です・・・)、少しは昔の自分に

胸を張れるのではないかと思います。

最後になりますが、私の拙い文章を読んでもいただきありがとうございました。知識、技術をつけ、より信頼して頂ける獣医師になれるよう精進してまいります。お会いすることがあればよろしく申し上げます。まだまだ猛暑が続きますが、くれぐれもご健康にお気をつけてお過ごしください。

〔畜産現場の声〕

一頭入魂 稲岡畜産

真庭市 稲岡畜産 稲岡 宏紀

現在25歳になる私は、和牛の繁殖に関わる仕事と兼業で、稲岡畜産で父と一緒に和牛繁殖農家を営んでいます。稲岡畜産は父が大工と農業をしながら起こしました。牛舎は実家の母屋に隣接しています。こういった環境で育った子供には、よくある話かもしれませんが、幼少期の私は牛舎で遊ぶことが生活の一部となっていました。その延長として牛にミルクや粗飼料をあげるといった手伝いをするようになって自然と「牛に関わる仕事がしたい」という気持ちが芽生えたように思います。義務教育終了後は畜産が学べる地元の高校に入って、卒業後は蒜山にある中国四国酪農大学校へ進学し、畜産一筋に進んできました。

中国四国酪農大学校卒業後、実家に帰って就農するタイミングで、牛舎を増築して事業規模の拡大を図りました。現在は親牛15頭に子牛が15頭。合わせて30頭を飼養しています。飼養頭数が増えたことで牛の管理面などで大変なことは増えましたが、これも挑戦と思い、日々奮闘中です。

また、私なりの取り組みとしてSNSを活用した情報発信を行っています。特にInstagramを活用して稲岡畜産のPRに力を入れています。投稿内容は生まれた子牛の紹介や、子牛市場に出荷する牛の情報を載せるようにしています。少しずつ反響がでてきていて、自分の中でやりがいも出てきています。アカウント名は【inaokatikusan1104】で投稿しているので、フォローしていただけると有難いです。鍵アカウントになっていますが、畜産関係者の方はすぐに申請を通すようにしているので、もし興味をもっていただけたら申請をお願いします。

一方で、事業拡大をして数年経ちますが稲岡畜産としての今後の課題も見えてきました。それは労働力と管理の面です。前述

したように現在の稲岡畜産の戦力は父と私の2人体制です。兼業農家ということもあり、すべての時間を牛へ捧げることはできません。こうした中で、もっと牛に手をかけて育てたい、もっと良い牛を育てたい、と思ったときに、欲を言えばもう少し人手が欲しいというのが実情でもあります。

近所の方に、給餌だけでも頼めないか打診はしていますが、なかなか解決とまではできていません。なので、現状でも取り組めることはないか、折をみては畜産農家の先輩方へいつも相談させてもらいながら、効率的な飼育ができるように改善に努めています。

畜産業界にとって厳しい時代ではあります。が、「牛が好き」という初心を忘れずに、牛一頭一頭に気持ちを込めて育てていき、いつの日か和牛子牛市場で最高価格賞が獲れる牛飼いになれるようこれからも精進していきたいと思っています。将来的には、よき伴侶を得て力を合わせて稲岡畜産をさらに発展させることが私の目標です。



〔センムのヒトリゴト〕

他人に厳しく 自分に甘い

一般社団法人岡山県畜産協会 中塚 陽二郎

平和の祭典パリ五輪で熱い戦いが繰り広げられている。金メダルを獲得し歓喜する選手、敗退し号泣する選手、勝者と敗者にくっきりとわかれる残酷な現実、人生をかけた大勝負に臨む心境はいかばかりか。凡人中の凡人である私には想像もつかない世界である。

一つの事に人生をかける姿勢には、スポーツ選手に限らず、羨ましくもあり、憧れでもある。過去の自分を振り返ってみると、その瞬間、瞬間に、そこそこ頑張ることはあっても、すべてを捨てて没頭する覚悟もなかった。日々の努力、鍛錬も長続きしないし、無理をせず無難な選択をしてきたと少し寂しい気持ちになる。良くも悪くも人生は選択の連続であるが、自己責任で選択できる時代に生まれた幸運には恵まれたと感謝すべきだろう。

オリンピックは輝かしい舞台であると同時に、この舞台に立てなかった多くの人々がいることも忘れてはならない。一昔前は「オリンピックは参加することに意義がある」と言われていたが、いつの間にか結果が重要視され、報奨金まで支払われるようになった。

表舞台ばかりに光をあてるのではなく、夢破れたアスリート達にも思いをはせる必要があるのではないかと思う。また、日本の選手が大逆転で勝利しても、逆転負けを喫した他国の選手への敬意も忘れてはならない。判官びいきかもしれないが、結果がすべてというより、そこに至る努力に対し

拍手を送りたい。

そんな中、東京五輪でも問題となったが、選手への誹謗中傷が止まらない。アメリカ大統領選挙でも相手への中傷ばかりが目立つ。ここ最近の、他人を執拗に攻撃し自分の正当性を主張する風潮には、ある種の気持ち悪さを感じてしまう。表面上は建前と偽善に終始し、裏では他人を厳しく断罪する。出る杭は打たれるのが常ではあるが、目立つのを嫌がる若者の心理も理解できる。利益や効率を重んじる資本主義の宿命ではあるが、格差が拡大、分断が進む中、隣人と共生する寛容の精神を大切にしたい。

一昔前ならとくに定年退職した年齢になり、そろそろリタイヤして、健康なうちに今までできなかった趣味や旅行、家族サービスにも時間を割きたい気持ちもある。

一方では、やり残した課題も多く、ここで投げ出しても後輩諸氏に申し訳ないという思いもある。5年先、10年先のあるべき姿を明確にして、どうしたら実現できるか、今、何をしなければならないのか、もうひと踏ん張りする責任もあるだろう。次世代の担い手に丸投げはできないのである。

大学時代に仲間と下宿で酒を飲みながら将来の夢を語り、手拍子で歌った「あ～我、ダンテの鬼才なく、バイロン、ハイネの熱なくも、石に向かいて野にうとう芭蕉のさびを喜ばず」のフレーズを、なぜか、急に思い出してしまった。

残暑お見舞い申し上げます



オールインワンが自信を持ってお届けします



日本初!



BOVINE
CRYPTO-EP
100ml×10本入り



牛用飼育用混合飼料
ボバインクリプト-EP

ついに登場!

乾乳から分焼へ
移行期
サプリメント



乳牛・肉牛飼料の専門メーカー

株式
会社

オールインワン

ご用命は

中国支店: 〒710-0826 岡山県倉敷市老松町1丁目2-40-101

TEL(086)427-6300 FAX(086)427-6011

E-mail: y-suwa@all-in-one.co.jp

残暑お見舞い申し上げます



蒜山酪農農業協同組合

代表理事組合長 長恒 充

〒717-0501 岡山県真庭市蒜山中福田958

TEL(0867)66-3645 FAX(0867)66-3647

E-mail:jersey@hiruraku.com http://www.hiruraku.com

残暑お見舞い申し上げます



おかやま酪農農業協同組合

代表理事組合長 檜尾 康知

専務 三宅 穰次

〒708-0841 津山市川崎94-1

TEL(0868)26-1101 FAX(0868)26-6763



残暑お見舞い申し上げます

畜産機械器具、資材取扱

西日本興農株式会社

代表取締役 柿 本 平 三

〒708-0841 津山市川崎86-1

TEL 0868-26-1180 FAX 0868-26-6836

残暑お見舞い申しあげます

岡山県農業信用基金協会

農家のための優良保証機関 会長理事 宮武 博

〒700-0826 岡山市北区磨屋町9番18の401号(岡山県農業会館)

TEL(086)222-3218 FAX(086)226-3443

残暑お見舞い申し上げます

公益社団法人 岡山県獣医師会

会長 中村 金一

役職員一同

〒700-0973 岡山市北区下中野350-103

TEL (086)243-1879 FAX (086)241-8543 <http://www.oka-vet.or.jp/>

残暑お見舞い申し上げます

暑い夏が過ぎれば、受胎率向上のチャンスです!

岡山県家畜人工授精師協会

会長 狩谷 和宏

役員一同

残暑お見舞い申し上げます

畜産経営の安定に寄与する

(一社)岡山県配合飼料価格安定基金協会

理事長 坂本 修三

役職員一同

〒700-0973 岡山市北区下中野350-103

TEL(086)241-4733 FAX(086)241-4722

残暑お見舞い申し上げます

岡山県養鶏協会

会長 安原 健二
役員 一同

残暑お見舞い申し上げます

岡山県孵卵協会

会長 山上 祐一郎

残暑お見舞い申し上げます

本物の味わい……新鮮な岡山の畜産物。

地方競馬益金は畜産振興を支援しています。

岡山県馬事畜産振興協議会

残暑お見舞い申し上げます

岡山県養豚振興協会

会長 梶田 謙二

事務局 岡山市北区磨屋町9-18 岡山県農業会館
(一社)岡山県畜産協会内 (086)234-5981



残暑お見舞い申し上げます

くみあいミツシュB



ビタミンB群サプリメント

くみあいミツシュBとは...

生体の代謝活動に関与するビタミンB群をメインとしたサプリメントです。ビタミンB群はエネルギー反応系で補酵素的に働くため、暑熱ストレスを緩和します。その中でもくみあいミツシュBには、肝機能強化に有効なパントテン酸を多く含んでいます。

パントテン酸（ビタミンB5）について

パントテン酸は生体内で補酵素に変換され、糖質・脂質・蛋白質の代謝を回し、エネルギーをつくりだす補助をする働きがあります。脂質代謝を改善し、肝臓への脂肪の大量蓄積（脂肪肝）を防止する働きがあると言われています。

給与方法

・肥育牛

夏場の食いどまり対策として、食いが落ちてきた牛に
1頭あたり50～100g 給与

・乳牛、繁殖牛

分娩後の食欲低下やケトosis予防として
1日1頭あたり100g / 分娩後30日間



通常品
10kg紙袋

生産性向上のため、
ぜひご活用ください。
お問い合わせはお近くの
JA、くみあい飼料まで！



JA全農くみあい飼料株式会社

西日本事業本部

（公社）中央畜産会からのお知らせ

畜産映像情報

がんばる！畜産！

畜産現場の“今”を30分の番組にしました！

映像を各種研修会、セミナーにご活用ください！

配信中の内容：総集編 若き情熱！全国和牛能力共進会
特別区／畜産DX特集 総集編養鶏・
養豚の今に迫る／コントラクターと連携
大分県高田牧場／他



◀スマートフォンからはこちら

▼パソコンからはこちらで検索

がんばる畜産

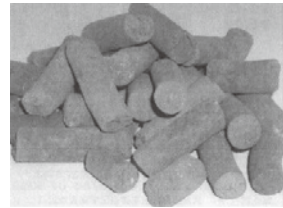


お問合せ：（公社）中央畜産会 経営支援部（情報） TEL03-6206-0846

残暑お見舞い申し上げます

腐植ペレットを使った飲水用水質改善システム

既存の飲水タンクを利用して、腐植資材をネットに入れて、
飲水タンクにつるし、ばっ気（エアレーション）するだけ！



ペレット化された腐植資材

- ・塩素消毒では除去できない色度・濁度まで改善できる。
- ・フィルターによる除去と比べて初期投資コストが安い。
- ・糞尿の処理、畜舎の臭気低減など畜産の課題解決に利用できます。

畜産汚水処理・硝化脱窒・臭い対策の課題解決のご提案も致します



既存の飲水タンクを利用し、吊るして、ばっ気するだけ



エンザイム株式会社

〒143-0016 東京都大田区大森北 2-3-16

第一かぎわだビル 4F

TEL : 03-5493-2771 / FAX : 03-5493-2776

担当:末吉 (090-5704-0011)

info@enzyme.co.jp

残暑お見舞い申し上げます

FOSS

乳・乳製品・飼料分析ソリューション



【BacSomatic™】

乳中の体細胞数・細菌数を同時に短時間で測定可能！

乳房炎、衛生状況のモニタリングや原料乳受け入れ現場でのスクリーニング検査の効率化を実現できます。

測定項目：細菌数(IBC、CFU)、体細胞数

測定対象：生乳



【MilkoScan™ Mars】 FT-IR乳成分分析装置

生乳成分を1分で測定する、コンパクトモデル！

生乳の品質管理、原料乳の標準化、製造管理の効率化を高い次元で支援します。

測定項目：脂肪、タンパク、乳糖、全固形、無脂固形、氷点(加水)

測定対象：生乳、製品乳



【NIRScan™ DS2500F】 NIR分析装置

飼料、飼料原料の複数成分を1分で同時分析！

TMRセンターでの飼料設計、飼料品質の最適化を支援します。

測定項目：脂肪、タンパク、水分、灰分、スターチ、粗繊維など

測定対象：飼料、飼料原料、配合飼料

フォス・ジャパン株式会社

セールス・サービス拠点：札幌・大阪・福岡

TEL: 03-5962-4811 / Mail: info@foss.co.jp

ANALYTICS BEYOND MEASURE

残暑お見舞い申し上げます

動物用 カルシウム剤 ダービー

ダービーは貝化石の
微粉末であり貝化石には
カルシウムや各種ミネラルが
豊富に含まれています。
カルシウムの供給源として
搾乳牛や子牛にも
最適です。



JYUCHIKU Co. Ltd. 株式会社ジュウチク

岡山市北区今保 99 番地 3

Tel.086-259-1230 Fax.086-259-1231

Email : jyuchiku@festa.ocn.ne.jp

残暑お見舞い申し上げます

健康な仔牛づくりへの
一歩目はこれから！



弊社では、四十年余り培ってきた醗酵技術を用
いることで、乳酸菌やその他の菌類を使用した良
質な醗酵飼料を、肉用・乳用を問わず、全ての
ステージの牛に対して提供しております。

また、弊社ではこれらの技術を利用したオーダー
品の設計や生産、飼料米の粉碎などの原料の
加工も承っております。

原料を持込での加工依頼や、御要望の数量の
多寡を問わず、まずはお気軽に御相談下さい。

醗酵飼料のバイオニア

フタバ飼料株式会社

〒709-0841 岡山県岡山市東区瀬戸町万富1057-1

TEL 086-953-0832 FAX 086-953-1870

E-mail : futabashiryo.co.jp

残暑お見舞い申し上げます

生乳集荷の「安全・安心」な輸送業務に取り組んでおります。

株式会社 きびじ酪農運輸 代表取締役 笹野 英明

本 社 〒719-1156 総社市門田70-1 TEL(0866)93-8790

阿曾事務所 〒719-1103 総社市西阿曾前田193-4
TEL(0866)99-8300 FAX(0866)99-8301



残暑お見舞い申し上げます

ホンモノは、おいしい。

OHAYO

岡山県産 生乳100%使用

晴れの国 おかやま牛乳



©岡山県「ももっち」

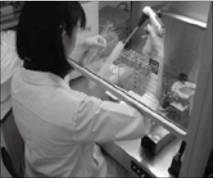
岡山県産の牛乳を100% 使用した牛乳です。
岡山県下、各地域から集乳した生乳を
使用しました。



www.ohayo-milk.co.jp

オハヨー乳業株式会社

残暑お見舞い申し上げます



動物の健康は 人の健康につながる

- 動物用医薬品販売の全国ネットワークを駆使し、あらゆる動物の健康維持に貢献します。
- 安全な畜水産物の生産をサポートし、獣医療の発展と食の安全・安心に貢献します。

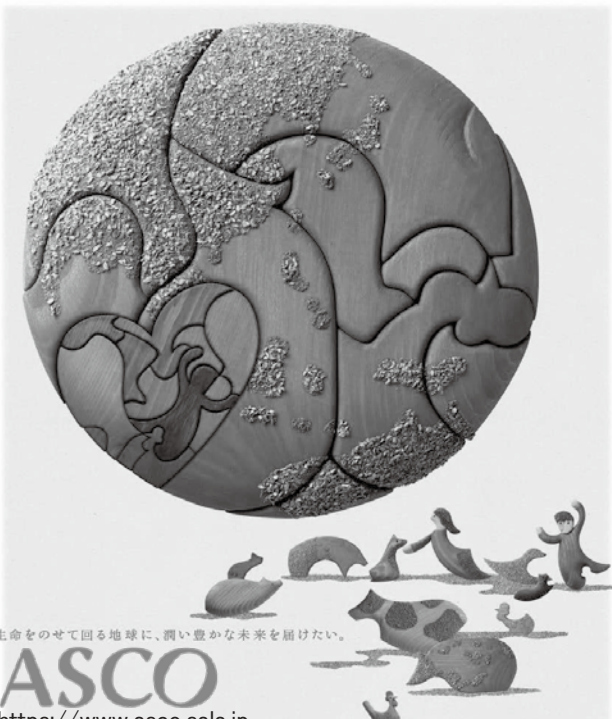
MPアグロ株式会社

本社 〒061-1274 北海道北広島市大曲工業団地6丁目2番地13
TEL 011(376)3860 FAX 011(376)2600

岡山支店 〒709-2122 岡山市北区御津吉尾1-1 TEL 086-724-4880 FAX 086-724-4889
AHSC西日本 〒702-8032 岡山市南区福富中2丁目6-18 TEL 086-902-2200 FAX 086-264-2500
御津物流センター 〒709-2122 岡山市北区御津吉尾1-1 TEL 086-724-4816 FAX 086-724-4882
東京本部・札幌・旭川・函館・帯広・北見・釧路・青森・秋田・盛岡・山形・仙台・東京・北関東
大阪第一・大阪第二・兵庫・広島・山口・鳥取・島根・高松・徳島・松山・宇和島
福岡オフィス・福岡第一・福岡第二・熊本・宮崎・鹿児島・鹿屋
札幌物流センター・帯広物流センター・盛岡物流センター・関東物流センター

残暑お見舞い申し上げます

人と動物の健やかな共生環境づくりに貢献します



本社

〒441-8021
愛知県豊橋市白河町100番地
TEL 0532-34-3821 FAX 0532-33-3611

東京本社

〒103-0027
東京都中央区日本橋1丁目16番地3号
日本橋木村ビル7階
TEL 03-6225-5790 FAX 03-6225-5791

営業所

- ・北海道支店
札幌
- ・東日本支店
前橋、松本、旭、茨城、栃木、東京
大宮、宮城、福島
- ・中日本支店
豊橋、安城、浜松、沼津、岐阜、名古屋
- ・西日本支店
広島、山口、米子、岡山、大阪、京都

高知競馬開催案内(2024)

地方競馬の収益金の一部は国内の畜産振興に役立てられています。

9月				10月			
開催日	備考			開催日	備考		
1日				17火			
2月				18水			
3火				19木			
4水				20金			
5木				21土			
6金				22日	○	ナイター	
7土	○	ナイター		23月	○	ナイター	
8日	○	ナイター		24火			
9月				25水			
10火				26木			
11水				27金			
12木				28土	○	ナイター	
13金				29日	○	ナイター	
14土				30月			
15日	○	ナイター		15火			
16月	○	ナイター		16水			
			ナイター(14:45~20:50)				ナイター(14:45~20:50)

ホットニュース

FMくらしきさんで和牛入門講座をPRしてきました!

令和6年8月7日、FMくらしきさんに、本会主催の「和牛入門講座」を中心とした県内和牛農家への支援状況などを紹介する機会をいただきました。パーソナリティーの中山さんの巧みな進行で、築山部長と井上班長はリラックスして回答していました。FMくらしきさん、中山さん、ありがとうございました!



あとがき

先日、久しぶりに生産者との宴席に出席した。若い頃からの馴染みの面々であったが、流石に互いの見た目に年輪を感じた。しかし、それ以上に心の年輪が気になった。終わりが見えない厳しい畜産情勢が彼らを直撃し、皆一様に経営難に陥っており、心のバランスを崩しているようにも見えた。宴席でも出てくるのは金の話。それが理由で家庭内での不和や夫婦げんかも絶えない。一切家庭での会話がなくなったという人もいた。人間は困難なときに真価が問われる。ただ、一人で出来ることはごくわずかで、大抵は支えてくれる家族や支援者が必要だ。我々が出来ることは限られているかもしれないが、解決の糸口を求めて、「家族」で協会など支援機関の扉を叩いてほしい。(H.F)

岡山畜産便り 8月号(夏季号)

第75巻 第5号(通巻712号)

令和6年8月29日発行

定価250円(消費税・送料含)

発行人 柴田範彦 編集人 藤原裕士

発行所 一般社団法人 岡山県畜産協会

〒700-0826 岡山市北区磨屋町9-18 岡山県農業会館5階

TEL 086-221-8575 FAX 086-234-6031

印刷所 ノーイン株式会社

残暑お見舞い申し上げます

安全・安心な肉用牛・肉豚・鶏卵の生産農場

岡山JA畜産グループ

新見市哲多町田淵1626番地の1

岡山JA畜産株式会社

代表取締役 梶田 謙二

新見市哲多町田淵1626番地1

有限会社 哲多和牛牧場

代表取締役 谷田 宏

残暑お見舞い 申し上げます



岡山県産牛肉銘柄推進協議会

会長 藤原 雅人

事務局 岡山市南区藤田556-126

全国農業協同組合連合会岡山県本部畜産部畜産販売課内

T E L (086) 296-5033 F A X (086) 296-5089